

互 援 じゅん

発行 平成30年10月
岩田じゅん連合後援会

岩田じゅんオフィシャル

検索

議会だより



台風21号の影響により、9月4日(火)議会は休会となった為、一般質問は翌日の9月5日(水)へ変更となりました。今回は議員となって8回目の登壇となります。傍聴には毎回多くの皆様にお越しを頂きありがとうございます。

大項目1

「過疎地における働き方改革」

◎中項目1

「テレワーク・サテライトオフィス導入への支援」

☆過疎地への人口減少に歯止めをかけるために、

若い世代が働く場所を確保することが必要と考えています。国では働き方改革法案が決まり、全国自治体の半数以上がテレワーク・サテライトオフィス(企業誘致)に興味を示しています。

豊田市においても過疎地に目を向けた働き方改革の考え方を伺います。

大項目2

「適切な公共施設の維持管理に向けて」

◎中項目1

「豊田市公共施設等総合計画管理の推進」

◎中項目2

「道路・橋りょうインフラに関する維持管理」

高度成長期に建設された、道路や橋りょうなどの公共施設が一斉に高齢化を向かえるにあたり、維持管理の舵取りが今後の財政にも大きな影響を与えます。そこで公共施設等の総合管理計画の方向性・特に道路・橋りょうのインフラの維持管理に視点をおき質問をいたしました。市からの答弁等については、様々な機会を通じて、地域の皆さんに分かりやすく説明してまいります。



連合後援会総会のご案内

日時 11月17日(土) 午後2時から

場所 高橋コミュニティー2階大ホール

第1部 連合後援会総会 (30分)

第2部 国政・県政・市政報告会 (60分)

間もなく一任期を終えようとしています、引き続き豊田市のため、地域のために頑張ってもらわなければなりません。

多数の皆様のご出席を賜り岩田じゅん君を励ましたいと思いますので、万障繰り合わせのうえご出席下さるようお願い申し上げます。

連合後援会長

元気なまちをつくる はじめの一步

話 和 輪



各地区で敬老の日の祝い会

9月は、各地区で敬老の日の行事が行われ、今年も多く地域からお招きを頂き心より感謝を申し上げます。

さて、敬老の日を迎えるに当たり現在の豊田市のご長寿の状況をお伝えさせていただきます。

豊田市の人口は8月1日現在で425,926人となり、その内「100歳以上」のご長寿の皆様は156名（9/1日現在）お見えになり、男女別では男25名・女131名です。

また現在、満99歳・数えて100歳を迎える方々は81名。最高年齢者は107歳を迎える女性の方で、ご長寿のお祝いに豊田市からは太田市長が訪問され長寿をお祝いされます。

参考までに愛知県では3,284人、日本全国では100歳以上の方は約7万人となり、男女別では男・約1万人、女・約6万人と発表されました。

豊田市ではご長寿のお祝いに金品の贈呈制度を設けており、満100歳以上の皆様には3万円とお祝い品・数えて100歳を迎えられる皆様には祝い品が贈呈され、他に満80歳・85歳・90歳・95歳を迎える皆様にも金品を贈られる制度があります。

三年間を振り返り…

3年前 市議会議員に就いた際には、とにかく目の前の事をこなすので精いっぱい、あっという間に一年が過ぎてしまいました。2年目に入り寺部小学校の移転も無事に終え、寺部区画整理事業は現在も進行中で、平成34年の完成に向けて現在順調に進んでいます。合わせて念願の「高橋」の架け替えも愛知県を中心に2019年度の完成に向けて進んでいます。豊田北バイパスも昨年には「平戸大橋」が地元扶桑町から矢作川を越え、こちらも国と豊田市とで今後も続けて参ります。豊田スタジアムでは2019年のラグビーWCP誘致に成功し、現在来年の9月開催に向けて準備に入っており、念願の中央公園第2期整備事業も第8次総合計画に沿って、平成31年度の都市計画決定に向けて動き始めました。

「高橋～久澄橋」の間をコアエリアとして、国交省の認可を受け「水辺プロジェクト」も現在、進めており豊田スタジアムを中心として大きくまちが変わろうとしております。私も特別委員会として今年3度目の豊田スタジアムを生かしたまちづくり特別委員会に所属させて頂いています。



しかし…まだまだ課題も多く県道則定線の4車線化・寺部～御立線の道路の拡幅や山間部では県道487号線の道路拡幅・急傾斜・治山・イノシシ対策などの多くの課題を抱えています。また各自治区からの地域要望の進捗も継続事業を含めて約55%の進捗状況であります。引き続き課題解決に向けて精進して参ります。

福祉面では、今年度は猿投支所に開設された福祉の窓口を近年中には高橋支所へも開設できるよう働きかけて参ります。

事業の進捗にこうして目を向けることは、

これまでの議員活動の足跡を振り返りながら、新しい事業の推進へも目を向けるいいきっかけとなります。